

平成29年度スーパーグローバルハイスクール構想調書の概要

【香川版SGH事業】

指定期間	ふりがな	かがわけんりつ まるがめこうとうがっこう				②所在都道府県	香川県
29～33	①学校名	香川県立 丸亀高等学校					
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	第1学年7クラス(280名)	第2学年7クラス(280名)
普通科	280	46	(80)		326(406)	第3学年7クラス(276名)	
	全生徒	SGコース	SGコース				
⑥研究開発構想名	うどん県から世界へ！コシの強い讃岐型グローバル・リーダーの育成						
⑦研究開発の概要	「持続可能な社会の創造」をメインテーマとする課題研究を実施し、その解決策を英語で世界に発信する。地域、行政機関、国内外の大学・高校・企業等との連携や協働を通して、コミュニケーション能力、マネジメント力、レジリエンスなどを備えた讃岐型グローバル・リーダーを育成する。						
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	<p>(1) 目的・目標</p> <p>讃岐うどんのように強いコシを持ち、逆境に立ち向かい、他者と協働して粘り強く「未来社会の創造」に取り組むグローバル・リーダーの育成を目的とする。その実現のために、地域や海外におけるフィールドワークを含む3つの協働（生徒との協働、地域との協働・連携機関との協議）の場を設定して課題研究を実施する。さらに、全教科でSGHに取り組むことにより、グローバル・コミュニケーション能力、グローバル・マネジメント力、課題発見・問題解決力、レジリエンス、学ぼうとする力等を身に付けさせる。</p> <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>本校は、平成13年度から、総合的な学習の時間を先行実施しており、各自が現代的な課題の研究に取り組むとともに、ホームルーム活動や情報の授業で、ディベートやプレゼンテーションを学ぶことで、問題解決力、情報活用力や討議する力を養ってきた。</p> <p>平成28年度には、SGHアソシエイト校として香川版SGH事業に取り組み、1年生281名を対象に「地方創生」をテーマとした課題研究を、丸亀市を活動フィールドとして実践的に実施した。研究成果は3月に「企画書」として丸亀市に提案した。また、台湾の高校との交流やネイティブスピーカーを活用したSG講座の実施により、総合的な英語運用能力の向上にも取り組んだ。さらに、3月には台湾での「海外研修」を実施した。</p> <p>これらの取組を踏まえ、地元丸亀市、行政機関、国内外の大学・高校・企業等との連携をさらに強め、地域や世界をフィールドに「持続可能な社会の創造」に向けて、文理の融合した多角的な視点から、課題研究に取り組むことにより、コシの強い讃岐型グローバル・リーダーを育成するために、以下の仮説に基づき研究開発を行う。</p> <p>【仮説1】「持続可能な社会の創造」をテーマとした協働的・実践的な課題研究を行うことで、グローバル・コミュニケーション能力、グローバル・マネジメント力、課題発見・問題解決力、レジリエンス、学ぼうとする力などを養うことができる。</p> <p>【仮説2】外国からの研修員・留学生、海外の大学生・高校生との異文化交流や研究協議の機会を増やし、ネイティブスピーカー等を活用することで、グローバルな視点での課題研究を実施できる。また、日本文化への造詣を養うとともに総合的な英語運用能力を身に付けることができる。</p> <p>【仮説3】全教科で、グローバル教材の開発やアクティブ・ラーニングの研究・実践に取り組むことで、学校全体でグローバル・リーダー育成に取り組むことができる。</p> <p>【仮説4】「SG海外報告会」「グローバル講座(年2回)」等を実施することで、SGコース以外の生徒の異文化や多文化共生への理解を深めることができる。</p> <p>(3) 成果の普及</p> <p>ア SGH研究成果報告書の作成・配布や「SGH通信」の発行等で広報活動を行う。</p> <p>イ 企業・行政機関・大学関係者を招いた「SGH成果発表会」を実施する。</p> <p>ウ 外国からの研修員・留学生やSGH関連校等を招いた「グローバル発表会」を実施する。</p> <p>エ 丸亀市に対して「企画書」を提案する。</p> <p>オ 取組内容を、学校webページで公表し、斯文祭(本校の文化祭)で発表する。</p>					

<p style="text-align: center;">⑧ -2 課題 研究</p>	<p>(1) 課題研究内容 「持続可能な社会の創造」をメインテーマとして、「活力と魅力ある社会の創造」「安全・安心な社会の創造」の2つのコース（「健康と福祉」「生物資源」「産業と人間」「教育と文化」「環境と人間」「平和と安全」などの分野を想定）に分かれて、グループ毎に課題研究を実施し、その解決策を英語で世界に発信する。</p> <p>(2) 実施方法・検証評価 ア 実施方法 テーマプロジェクト（総合的な学習の時間）において、グループ毎に課題研究を実施する。1年次には、サブテーマ「地方創生」を定め、丸亀市の全面的バックアップの元、丸亀市をフィールドに、連携大学（香川大、大阪大、関西学院大、立教大学）やJICA四国、地元企業・商工会等の指導を受け、グローバルな視点から実践的・協働的に課題研究を実施する。研究成果は「企画書」として丸亀市に提案する。2年次には、研究フィールドを世界に広げて、1年次の各分野での研究成果をベースに分野を選択し、「持続可能な社会の創造」について研究し、その解決策を世界に英語で発信する。 【1年次】社会と情報の授業で、統計学に基づいた課題発見・問題解決や情報活用（収集・分析、発信等）を学び、「モノづくり」「観光・商業」「生物資源」「教育」「地域医療」「都市と人間」の6つの分野に分かれて、グループ毎に課題研究を実施する。 ・疑問点を大切にして、「PPDACサイクル」を活用することで、確かな根拠（エビデンス）に基づいた「課題」を発見させる。 ・「フィールドワーク」や「中間報告会」等を実施し、地域・連携機関等の方々との協働の中で、手厳しいアドバイス（「ダメ出し」）などをいただき、研究を深化させる。 ・3月には台湾への海外研修を実施し、現地の高校生等との研究協議を通して、総合的な英語運用能力等の必要性を実感させ、SGH事業の核となる生徒を育成する。 【2年次】「SGコース（80名）」を設け、文理融合のグループを編成し、多文化共生を踏まえたグローバルな視点から「持続可能な社会の創造」に挑む。 ・講義・ワークショップ等を通して、世界の現状・課題を理解し、1年次の研究成果を踏まえて、グローバル課題の解決策にあたる。 ・西オーストラリアへの海外フィールドワークを行い、海外の大学生・高校生との研究協議や実地調査を通して、グローバルな視点での課題研究を進める。 ・英語での報告書作成のためにネイティブスピーカー等を活用することで、グローバルな課題研究を深化させ、総合的な英語運用能力を身に付ける。 【3年次】「SGコース（80名）」の生徒が、英語での成果発表に向けて、英語運用能力の向上に取り組み、外国からの研修員・留学生等に対して「グローバル発表会」で英語によるプレゼンテーションを行う。また、研究成果をWebで海外に発信する。 イ 検証評価 (ア) 連携大学・企業・行政機関等の方々により、SGH発表会等でのプレゼンテーションや「企画書」「報告書」に対する評価を実施する。 (イ) 生徒に対して、ルーブリックによる自己評価を取組ごとに実施するとともに、身に付けさせたい力についての自己評価を行い、評価結果を次年度に生かす。</p> <p>(3) 必要となる教育課程の特例等 なし</p>
<p style="text-align: center;">⑧ -3 上記 以外</p>	<p>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価 ア 全教科において、アクティブ・ラーニングの研究・実践に取り組む。 イ 全教科において、グローバル教材を開発する。 ウ 「斯文土曜塾」（土曜日の学習支援）において、ネイティブスピーカーによる「SG講座」を実施する。 エ 総合的な英語運用能力の向上検証のために、実用英語技能検定等の英語外部検定を導入する。 オ 海外の大学生、高校生との異文化交流や研究協議の機会を積極的に設定する。 カ サイエンス・コミュニケーション能力向上のために、ディベート実践に取り組む。</p> <p>(2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等 なし</p> <p>(3) グローバル・リーダー育成に関する環境整備、教育課程課外の実施内容・実施方法 ア 「高校生国際協力実体験プログラム」（JICA四国）に参加する。 イ 「国際理解のための英語スピーチコンテスト」にグループで参加する。 ウ 「地方創生☆政策アイデアコンテスト」「ビジネスグランプリ」などへ応募する。 エ 海外の高校とWebで交流する。 オ 外部各種大会（大阪大学、関西学院大学等）での研究発表に参加する。</p>
<p style="text-align: center;">⑨ その他 特記事項</p>	<p>平成28年度より学年進行で実施しているため、今年度は、1・2年生での実施である。</p>